

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月1日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892800012		
法人名	有限会社 なかよし		
事業所名	グループホーム なかよし	ユニット名	1ユニット
所在地	〒306-0626 茨城県坂東市小山2131-5		
自己評価作成日	平成21年11月18日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年1月15日	評価確定日	平成22年5月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利根川近くに施設を構え大いに自然を感じられ環境的に恵まれている。 食事面では、施設内の農園で収穫した野菜を主とし、健康面にも気を配っており、ご利用者様は、その野菜の収穫を楽しんだり、施設内の花壇の水やり、手入れなども一緒に行うなどしています。</p> <p>平成21年度坂東市花いっぱい運動花壇コンクールでは、優良賞をいただきました。 地域の方々との交流を深め認知症の人の理解を深めていただく様、地域交流会を5月こどもの日、7月七夕祭、10月体育の日に運動会を開催し、50人～80人の方々が集まってくださり、とても喜んで下さりました。</p> <p>又、職員の介護力を深めるため、毎月1回は、施設内研修を行い、ご利用者様、ご家族様に安心して過ごして頂けるようにしています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>運営者は利用者本位のサービス提供を第一に考え利用者自身が選択、決定ができるよう支援し、職員は利用者を昔の風習や生活の知恵などを教えてもらえる存在として捉え互いに寄り添いながら支え合う関係を築いている。</p> <p>自治会に加入し行事に参加したり、事業所の行事に地域の人々を招待するなど日常的に地域と交流し、相互に協力し合う関係を築いている。</p> <p>重度化や終末期の対応は、医療関係者や家族等と協力してできるだけ利用者の思いや希望にそった最期が迎えられるよう支援している。</p> <p>事業所で調理される野菜類の大部分は自家菜園で賄われており、新鮮で安心安全な食材が提供されている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設入り口に掲示している。毎月の研修会においては、まず理念を読み上げることから始め、実践につなげるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関に掲示するとともに日常のミーティングや職員会議などで唱和したり確認するなど全職員で共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から、地域区長さん、民生委員さんを始め地域の方々と声をかけ合い日常的に交流を図っている。地域交流会を施設内において開催している。	自治会に加入し自治会行事や清掃活動に参加するとともに年に3回地域の人々を招待して交流会を開催するなど、日常的に地域と交流を図っている。利用者は散歩時に地域の人々と挨拶を交わしたり、相互に訪問してお茶を飲んだり、植物や金魚、メダカなどを貰うなど、馴染みの関係を築いている。介護実習生の受け入れや高齢者や介護者の相談など、地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の中に認知症、介護等の相談があれば積極的に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見等を取り入れサービス向上に活かしている。	運営推進会議は利用者や家族等、地区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、事業所職員で2ヶ月に1回開催している。会議では利用状況や活動の報告をするほか、意見交換をして事業所への理解を深めてもらうとともに、出た意見や助言はサービスの質の向上のために活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、市役所担当者に足を運び連携に取り組んでいる。	管理者は市担当者に電話や訪問し、日頃から相談しているほか、事業所の空き情報を市担当者から地域住民に提供してもらったり、事業所のパンフレットを置いてもらうなど連携を図り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を開き、拘束のないケアを実践している。	代表者や全職員が玄関の施錠を含め身体拘束の弊害を理解し「話を聞いてあげれば拘束しないですむ」という信念のもとに身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 利用者の外出を察知した場合は職員が同行するなど、利用者の意思を尊重する支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、研修会を行い、防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行い学んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っており、理解をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。	利用者からは日常の触れ合いの中から、家族等には電話連絡や面会時などに意見や要望を聴くようにしている。 玄関に意見箱を設置したり重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記しているが、意見や苦情が出たことはない。	利用者や家族等が率直な意見や苦情を表出できるよう、介護相談員の活用や家族会の発足、無記名のアンケートの実施などを提案する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い意見や提案を聞き反映するようにしている。	代表者は職員の個人的事情も含めて常に話し合うことが大切だと考え、折に触れ声かけをしている。 管理者や主任が役割を分担して職員の意見や提案を聞いているが、出た意見等や検討結果を記録するまでには至っていない。	職員会議や日常の会話の中から出された職員の意見等とその対応を記録し、運営に反映させることを期待する。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の研修会や話し合いの場を設け、常に職員が仕事をしやすいように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受けるよう促し、職員のスキルアップを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の部会等へ参加し、情報を交換しながらネットワーク作りの機会とし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の話を良く聞き関係づくりにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の話を良く聞き関係づくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人・家族と十分な話し合いを行い対応をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に物事を行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来やすい環境づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで係ってきた方々が面会にきてくださったりしており、また気軽に来て頂ける様な環境づくりを心がけている。	利用者の行きつけの美容院への送迎や買い物への同行、家族や親戚、友人との電話のやりとりを支援したり、「家に帰りたい」「仏壇に線香をあげたい」「飼っていたシャモを見たい」など、利用者の希望を叶え、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常に配慮し、孤立感を感じさせないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取った方が1名。家族・主治医と連携をとりあい看取りました。また息子さん以外身寄りのない状況だったため葬儀の準備から御見送りまで深く係った。その後息子さんが尋ねてくれている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々思いや希望を伝えやすいように、配慮している。	職員は利用者と日常の会話や表情などから思いや意向の把握に努めている。 農作業や食事の手伝いなどを通して、利用者の気持ちや能力に合わせて役割を担い生活できるよう支援したり、ラジオ体操や書道、手芸、数え歌など利用者がしたいことをしたい時にできるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、入居前のケアマネジャーなどから情報を収集し、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が常に話し合い、一人ひとりの心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を見つけ、どのようなケアをしていくか話し合いながら、介護計画の作成にあたっている。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れて6ヶ月毎に作成している。 心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直すとともに家族等の確認を得ているが、全職員で話し合い作成するまでには至っていない。	利用者や家族等から聴取した生活歴や情報を記録し全職員で共有するとともに、介護計画は関係者全員で検討し作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、又つねにご利用者のケアについてはなしあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に対応し、福祉用具の購入など検討したり、家族も含め話し合うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問ボランティアの受け入れ。地域の方との交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院を設けており、毎週往診にきてくださいます。その際には、付き添い本人・家族の不安を取り除けるよう心がけています。	契約時に事業所の協力医を主治医とすることを利用者や家族等に説明し承諾を得るとともに、週1回の訪問診療を支援している。 歯科や眼科等のかかりつけ医への受診は家族等の対応を基本としているが、家族等の都合がつかない場合は職員が受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居中のデータを受診時につたえている。体調の変化の早期発見につとめている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医院をもうけている。つねに施設かかりつけ医と連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望に添って、入居時から終末期のことについて話し合っている。	重度化した場合や終末期の方針を明文化し、契約時に利用者や家族等に説明している。 利用者や家族等の希望にそった終末期を過ごせるよう、医療関係者や職員、家族等が一丸となって支援に取り組んでおり、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の勉強会を開いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署の協力を得て、利用者・職員ともに実施した。	今年度は9月に避難訓練を行い3月に2回目を行う予定であるが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害時に地元の消防団の協力が得られる体制になっている。 玄米や井戸水は普段の生活で使用しているものの、災害時に備え食糧や飲料水などを備蓄するまでには至っていない。	避難訓練に地域住民の参加が得られるよう運営推進会議等を活用し働きかけるとともに、夜間を想定した避難訓練を行うことを期待する。 食糧や飲料水、毛布、懐中電灯、簡易トイレなどを備蓄することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人、ひとりに対して普段から人格を尊重した対応を心がけている。	理念に「その人らしくゆったりと楽しく自立的な生活が送れるよう支援する」と掲げているように、利用者一人ひとりの個別性を尊重した支援をしている。 職員は利用者を昔の風習や生活の知恵などを教えてもらえる存在として捉え、共に過ごし支え合う関係を築いている。 個人用ファイルは事務室の人目につかない場所に保管し情報の漏洩に留意するとともに、個人情報を使用する場合は家族等の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を良く聞き今何がしたいのか、何を望んでいるのか、気持ちを表現出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	研修会において毎回、その旨については、大切にしよう話し合い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が自ら、一日の服装をきめたり、理容面においても、地域の美容院に協力を仰ぎ、その人らしい身だしなみ・おしゃれができるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み、嚥下などに配慮し、おいしく食事が取れるよう工夫している。介護度の高い利用者が多いため、なかなか準備や片付けをすることはできないが、職員が援助し、出来るだけ一緒にやっていただくようにしている。	利用者は職員と共に食事の下準備や後片付けなどできる範囲で担っている。 事業所の自家菜園で収穫した食材を活用して調理することが利用者や職員の話づくりで役立っており、楽しみの一つになっている。 職員は食事の介助をしながら和やかに会話し、利用者と同じテーブルを囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認、水分摂取の重要性を説明している。栄養バランスにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が一人ひとり付き添い口腔ケアをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録で排泄のパターンを把握し排泄の失敗がないようにしている。在宅ではおむつ使用だった利用者においては、トイレ誘導をして、リハビリパンツからパンツ使用になられた方もおります。	職員は利用者一人ひとりの生活リズムや排泄のパターンを把握するとともに、さり気なく声をかけ排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間はポータブルトイレを使用したり職員が付き添うなど、なるべくおむつを使用しなくて済むよう支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内農園で収穫された野菜を食事メニューに多く取り入れたり、生活リズムで予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調にあわせ、対応している。	入浴は週3回を基本としているが、風呂は日曜日を除いて毎日用意しており、利用者一人ひとりの希望に応じて対応している。 湯船に菖蒲や柚子を浮かべたり入浴剤等を使用して、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、根気強く声をかけるなど、利用者の思いにそった支援をしている。 医師の指導により終末期であってもできるだけ湯船に浸かれるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分に応じて、休息を取れるようにしている。また、各部屋の室温などは本人の好みにあわせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は施設内で管理し、きちんと服薬されたことを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、漬物漬け、塗り絵、テレビ鑑賞、散歩などその方がしたいことを支援し楽しみを持っていただける様支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望、体調、天候にあわせてだが、散歩にでかけている。その際地域の方と触れ合う機会をつくっている。	職員は天気の良い日にホーム周辺を散歩したり、庭でお茶飲みをするなど、利用者が気軽に外気浴を楽しみ気分転換が図れるよう支援している。 利用者の希望に合わせて、近隣の神社や公園への外出、日用品の買い物や帰宅に同行するなど支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、所持している利用者は少なく、所持する場合には家族にも確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々にあった、花や飾りつけをするようにしており、季節感が感じられるよう工夫している。	白菜や葱、大根、人参、じゃがいも、小松菜などを栽培している畑は、利用者と職員が作業や収穫を共にする場となっており、五感を刺激したり季節の移り変わりを感じられる空間となっている。 壁面には利用者が制作した塗り絵や習字、行事を楽しむ利用者の写真などが飾られているほか、事業所のあちこちに季節の花が飾られ家庭的な雰囲気居心地よく過ごせる場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時からその都度希望に応じて家族と連絡を取り合い、なじみの物を持ち込んでいただいている。	床暖房を備えている居室にはテレビや鏡台、家族等の写真、手作り品など利用者の馴染みの物品が持ち込まれている。 職員は毎週金曜日に居室に花を生け、利用者が居心地よく暮らせるよう工夫をしている。 各室の入り口には利用者と職員が一緒に作った飾りや名札がかけられ、温もりが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレ、浴室等手すりの設置、夜間ポータブルの使用など自立に向けた支援を行っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホームなかよし

作成日 平成22年 6月 8日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご意見箱の設置をしているが意見・苦情が出ていない為利用者、家族の意見苦情を表出する工夫が必要。	利用者、家族の意見、苦情を管理者及び職員外部者に表せる機会を設け、運営に反映させる。	利用者や家族が率直な意見や苦情を表出できるよう家族会の発足、無記名のアンケートの実施などとして活用する。	3ヵ月
2	26	介護計画作成は心身の状態と変化が生じた場合はその都度見直し、家族の確認は得ているが、全職員での話し合いで作成まで至っていない。	全職員で利用者家族の希望を理解し、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について意見を反映し作成する。	利用者や家族から聴取した生活歴や情報を全職員で共有し、介護計画を検討しながら個別ケアを行っていく。	3ヵ月
3	11	月1回のミーティングの際意見や提供を聞き、反映するようにしているが、常時意見を聞き反映する事まで至っていない。	代表者、管理者が運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を増やし反映させる。	ミーティングや日常会話の中から出された職員の意見とその対応を記録し、検討する。	3ヵ月
4	35	避難訓練を消防署の協力を得て利用者、職員と実施しているが地域住民との協力体制まで至っていない。	火災、地震、水害等昼夜を問わず避難できるよう地域住民との協力体制の強化を行う。災害時の食糧、飲料水の確保。	避難訓練に地域住民の参加を働きかけ、夜間を想定した訓練も取り入れ協力を得られる体制を作る。食糧、飲料水、その他必要な備品の確保。	6ヵ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。